

新たな年、寅年がオミクロンと共に始まった。寅年生まれの日本の総人口の8・2%、1025万人。1950年生の寅は185万人、当方その一人也
12月22日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻38章「差額地代。概説」を高田の報告で行いました。地代が含まれる生産物も生産価格で販売されるが、問題は利潤の一部が地代に転化され土地所有者へ行くことである。水力で有利な条件があれば、超過利潤が生まれるが、その原因は資本・労働から発生したものでない。自然落流は自然力であって、石炭のように費用が掛からず、なんの労働も入り込まない。この自然力は協業・分業のような社会的自然力と同様に資本による独占が可能であるが、この独占化は一般利潤率を高めるが、超過利潤は絶えず平均利潤に均等化され超過利潤は存在しない。ただし、自然力と結びついた労働は自然発生的生産力が増大し、水力に恵まれた土地は限られ、自然力の占有が高い生産力を形成する。落流を保有する土地所有者への超過利潤が地代として入る。ただし、自然力が超過利潤の源泉ではなく、自然力が労働の例外的に高い生産力という自然の基盤をもたらすからである。討論では、落流の例は分かり易さとともに、水車という時代性もあるが、土地の豊度に比べて落流では格差が少ない。日本では、川の水は共有となり、田への水争いを村全体で調整していた。人間も自然の中の一つ、労働価値に対して自然の価値を入れないのは資本主義だから。森林は伐採して植林するが、鉱物は限りあるもの。SDG'sは持続可能な開発というが、問題は経済成長を止めないこと。修繕したほうが高くつくことも。出席は、小野さん、川口さんと高田の3名でした。

- * 1月12日ゼミ：サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』第7章「労働を承認する」、テキストはMLで配布のPDF版を使用します。コピー版が必要な方は当方まで連絡下さい。
- * 1月26日ゼミは、MLで提案の「第4週ゼミの今後について：意見交換会」を予定しています。ご意見・ご提案をお願いします。
- * 2月9日ゼミからのテキスト：芦田文夫『「資本」に対抗する民主主義—市場経済の制御と「アソシエーション」』本の泉社,2021-10、です。
- * 訂正：前号でゼミ報告の最初に日付「12月8日」が抜けていました。

***** ゼミ日程 *****

- 1月12日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
M.サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』7章 報告竹内さん
- 1月26日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
「第4週ゼミの今後について：意見交換会」(予定)
- 2月9日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
芦田文夫『「資本」に対抗する民主主義』はじめに、1章 報告者未定
その後 2/23, 3/9, 3/23 : アイクルの部屋